

卒業証書授与式が終わった。22名の卒業生は、担任点呼の後、胸を張り、未来へ向かって卒業宣言をし、卒業証書を受け取る▼卒業宣言から卒業証書を受け取るまで、わたしとの約束が一つあった。「わたしと眼を合わせ続ける」儀式独特の緊張感と恥ずかしさの中、子どもたちは、精いっぱい意識をして私の眼を見続けようとしてくれた▼「大事なことは、人の眼を見て言う」いきものがかりの歌にそんな歌詞もあった。「子どもと正対して話をする瞬間を大切にしなさい」と初任の頃、当時の教頭先生に教えられたことは、今でも忘れない▼「目は口ほどにものを言う」あなたがあの時見せてくれた目の輝きは、嘘のない正直で素敵な目であった。名前は忘れてしまうかもしれないが、あなたに出会った時、あの時の目の輝きを思い出すことはできるだろう▼卒業式に花を添えるのは「歌」と「合奏」。校歌、全校の歌、6年生の歌、5年生の合奏。全校の歌は、6年生の近くに座っていたおかげで、自然オクターブ合唱になっているのでは？と改めて気がついた。5年生の合奏では、音楽をみんなで作っていく楽しさと集団の力を感じた▼それらをつかさどった指揮のあなたが、堂々と場を仕切り、6年生の退場のタイミングを見計らいながら、合奏をまとめたあなたの後ろ姿と5年生が音にこめた「集団力」。担任教師は、決して忘れることはないだろう。